



親子で「気持ちを循環」させよう!

社会福祉法人 大阪誠昭会 寝屋保育園 理事長 田中啓昭

ある日の 清々しいできごと

先日、東京への出張がありました。その際のできごとです。駅で視覚障がいの方が前にすこし困っていました。通勤ラッシュ時だったので、周囲の雰囲気で人が多いな、と気づかれていたのでしよう。人ごみの中で立ち尽くされていました。すぐそばをたくさん的人が慌ただしく通り過ぎていきました。中には、あからさまに「邪魔だよ!」という顔をして通り過ぎていく人もいたほどです。通勤ラッシュ時とはいえ、困っている人が目の前にいるのに、誰か声をかける人が1人ぐらいてもいいのにと

探されていました。「どこに行こうとしているのかな?」と思つた矢先、「あのー、すみません。道をお尋ねしたいのですが…」と声をかけてこられました。

突然のことには少し戸惑いつつも、「それなら、△△を上がつて、右に曲がると××があるのです」とガイドマップを見ながらわかる範囲で説明しました。ご婦人は、「ご親切にありがとうございます! 何人もの方に聞いてもわからぬとか、知らない振りをされたので、困つていたんです」と。どうやら初めて大阪に来られ、友人との待ち合わせ場所がよくわからず連絡もつかないのでも、右往左往されたいたとのこと。丁重にお礼をいつていただき、私はまた清々しい気分で新幹線に乗り込みました。

感じたことを
素直に
伝えてみよう



気持ちを伝えてみよう

そして、自分の座席に座り、車窓をぼーっと眺めながらふと思つたのです。「人の役に立つことって、なんだかうれしい気持ちになるな」と。援助を必要としている人に、「なんとか力になれたら…」と、ただ純粹な気持ちで少しの勇気を持つて自分ができることをしたら、喜んでくれた。そして私も笑顔になり、温かくうれしい気持ちになつた。この時、私が感じたなんだか清々しい気持ち。

これって、気持ちが循環していく兆候なんじやないのかなと思うのです。だから、次も援助を必要としている人がいたら、私はきっとこの日と同じことをするのでしよう。

親子関係では、どうしても親は子どもを自分の所有物のように捉えがちです。子どもの気持ちを全く考えていない発言や行動をとってしまうこと

があります。そんな時は、この言葉を思い出してほしいのです。「気持ちは循環する」。

子どもの気持ちに寄り添い、子どもの立場になつてものごとを捉え直し、その時に感じた純粹な気持ちを、子どもに伝えてみてはいかがでしょうか。そうすることで、「ありがとう」「ごめんなさい」「愛してるよ」といった素直な想いが伝えられるかもしれませんね。

日々の慌ただしさの中で忘れがちな、相手を思いやる純粋な気持ちを言葉に表すこと、思つてることをほんの少し勇気を出して行動に移します。そうすることで親子関係だけでなく、きっと自分を取り巻く人間関係がよい方向に動き出していくはずです。みんなでうれしい気持ち、温かい気持ちをたくさん循環させたいですね。

ました」とお礼

をいつていただ

きました。そし

て、ご挨拶もそ

こそこそ、足早

に電車に飛び乗

りました。電車

に乗つてひと息

ついた瞬間に芽

生えてきた、な

んだか清々しい

気持ち。「なんだろう? この

気持ちは…」。



子どもの
気持ちに
寄り添って